

教 教育相談（カウンセリングを含む）

Educational Consultation (including Counseling)

MIYAGAWA Hiroshi

宮川 博

■授業の目的

心因性の課題を抱えた子供の増加に鑑み、個々の生徒の発達状況に即して必要な支援が行えるようにカウンセリングをはじめとする教育相談の基礎的知識や手法を身に付ける。また、教育相談の具体的な進め方や校内組織・外部専門機関との連携の必要性を理解する。

■授業の到達目標

教育相談に関する心理学の基礎的知識やカウンセリングマインドの重要性を理解している。
生徒の発達段階に応じた教育相談の進め方や校内組織および外部専門機関との連携の重要性を理解している。

■授業計画

- 1 教師が行う学校カウンセリング
 - 1 学校カウンセリングとは 2 教師のための学校カウンセリングの特徴 3 教育相談の具体的な進め方
- 2 子供理解（児童生徒の発達段階や発達理論を中心に考察する）
 - 1 発達とは何か:発達課題の具体例 2 児童期の特徴 3 青年期の特徴 4 個性・個人差の問題。
- 3 教師と保護者のコミュニケーション
 - 1 保護者との関わりを考える 2 保護者面接の方法、クレーム対応のあり方。
- 4 学校カウンセリングの組織と連携
 - 1 主な連携の形態 2 教師とスクールカウンセラーとの連携 3 教育相談・生徒指導における連携。
- 5 子供の状態を把握する
 - 1 心理的問題の状況把握 2 学校で起きる諸問題（障害児への支援を含む）の把握と対応。
- 6 子供同士の理解を深める
 - 1 エンカウンターとは 2 構成的グループエンカウターの実施方法、エクササイズとは、シェアリングとは。
- 7 ソーシャルスキルを育む
 - 1 ソーシャルスキル教育とは 2 ソーシャルスキル教育の実施方法 3 継続的なソーシャルスキル教育の推進、学習で味わう心地よさ。
- 8 ライフスキルを育む
 - 1 ライフスキル教育とは 2 ライフスキル教育としての健康教育 3 セルフエスティームを育成するライフスキル教育 4 ライフスキル教育と発達障害。
- 9 進路を見通す
 - 1 キャリア教育とは 2 キャリア教育の内容と方法とポイント 3 進路選択でハンディーンを負いやすい子供への情報提供・支援のあり方。
- 10 集団不適応と不登校
 - 1 集団不適応の理解と支援 2 不登校の初期段階でのかかわり方 3 不登校が本格化した段階でのかかわり方 4 学校組織による不登校半減への試み。
- 11 いじめの問題への対応
 - 1 いじめとは 2 いじめ被害を訴えてきた子供への支援 3 いじめ加害者への支援 4 いじめ被害者の保護者への支援 5 いじめ加害者の保護者への支援。
- 12 問題行動
 - 1 問題行動とは、「非行」との違い 2 問題行動に走る子供の特徴 3 問題行動はなぜ発生するのか 4 問題行動に走る子供にどのようにかかわるか。
- 13 危機管理・児童虐待と PDSO
 - 1 危機と危機介入 2 児童虐待とは 3 児童虐待の防止に向けて 4 PDSO とは何か。
- 14 発達障害への対応
 - 1 ASD の理解と具体的対応 2 LD の理解と具体的対応 3 ADHD の理解と具体的対応 4 それぞれの状況に応じた具体的な対応と支援。
- 15 授業のまとめと試験
これまでの授業の概要を整理し、試験を実施。試験後に事後解説。

■授業の方法

講義を基本とするが学校現場の具体的事例を取り上げて協議形式の授業も行う。理論的・実践的指導力の開発を目指し、学校教育の場で起きる様々な問題行動への予防・治療的対応やカウンセリングマインドを身に付ける。

■予習・復習

毎回テキストの講義予定箇所を通読して講義に参加すること。また、レポート課題は講義内容の理解を深め発展的な思考を促す意味で設定しているため、次回授業の際にレポートとして提出すること。定期試験の論述問題はこの課題と、講義中に考察した話題から出題する。

■成績評価の方法

定期試験（論述式）とレポート提出や授業中の課題への取り組み等も含めて総合的に評価する。
試験 70%、学修への取組状況（課題達成状況等） 30%

■教科書・参考書

小林正幸他編, 2008,『教師のための学校カウンセリング』有斐閣、文部科学省,2010,『生徒指導提要』。

■関連する科目

教育・発達心理学、その他教職関連科目など様々な観点から教育について考察するように努めてほしい。